

G. バプテスマ

ローマ 6:3-4 を読んでみましょう。「バプテスマを受けた」という言葉が出てきますが、これはバプテスマ式のことを言っているではありません。あなたが信仰告白をした時に、神があなたの命(あなたの本質)の上に行われたことを「バプテスマ」という言葉を使って説明しているのです。これを霊的バプテスマと呼びます。人は、バプテスマ式によって救われるのではなく、霊的バプテスマによって救われる、すなわち、実際に永遠の命が誕生します。そして、救われたことを公に証しするのがバプテスマ式です。霊的バプテスマとバプテスマ式の区別は大切ですので、しっかり理解しましょう。

1. 霊的バプテスマ(聖霊のバプテスマ)

ギリシア語の動詞「バプティゾー」は、キリスト教の専門用語ではなく、「浸す」、「もぐる」という意味の一般語です。上述のローマ 6:3 では、この語が、「私たちがキリスト・イエスの中へとバプティゾーされた」という受動態で使われており、「私たちの命(本質)が、キリスト・イエスの中に、その一部として取り込まれた」というイメージをあらわしています。これが霊的バプテスマです。

(1) 霊的バプテスマの結果

私たちの命(本質)はキリストとともに、十字架につき、ともに葬られ、ともに復活し(この時与えられたのが永遠の命)、ともに召天し、今、天におられるキリストの中に新しい命(本質)は存在しています。そして、キリストの空中再臨の時に、新しい体が与えられ、私たちは、命・体ともに、罪と死の無い永遠の存在となります。(コロサイ 3:1~4)

(2) 聖霊の内住

聖霊のバプテスマは、信仰告白した瞬間に行われます(1 コリント 12:3b)。その時、私たちの命(本質)は、キリストの中にバプティゾーされ、同時に、聖霊が私たちの体の中に与えられます。

(3) 聖霊のバプテスマ／聖霊の内住に関する注意

「使徒の働き」の中に、聖霊のバプテスマにより聖霊が内住したことの現れとして、「異言」を語りだすという現象が起こったことが3回記されています。これは、福音宣教が新しい対象に拓けられる時に神が行われた「しるし」(証拠としての奇跡)で、それ以外に、聖霊が内住した「しるし」として異言が用いられた例はありません。しかし一部のキリスト教宗派では、これらの箇所を根拠に、「異言が語れなければ、聖霊のバプテスマを受けておらず、聖霊は内住していない」と主張し、信仰告白の他に、「聖霊のバプテスマの儀式」を行います。これは、間違いであり危険な教えです。

※「使徒の働き」で異言が聖霊のバプテスマの「しるし」として用いられた3つのケース

①エルサレムで(2:1-4) ②改宗ユダヤ教徒に(10:43-48) ③完全な異邦人に(19:1-7)

2. 水のバプテスマ(バプテスマ式)

(1)悔い改めの告白や、救われるための式ではなく、「証し」のための式 (1 ペテロ 3:21)

(2)イエスのご命令であり、「弟子(従う決心をした者)」が受ける (マタイ 28:19)

(3)霊的バプテスマによってキリストの体なる教会(➡J.)の一部とされたように、水のバプテスマ(式)によって地域教会の一部として加えられる。(1 コリント 12:13~18)

《参考》ヨハネのバプテスマ

人々をイエス・キリストに向けるためのものであり、イエス・キリストの救いが実現した後は、直接キリストに従うものには不要となった マルコ 1:4~5 使徒 19:1~5